

(別添4)

【川越市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

第三次川越市教育振興基本計画の基本理念「生きる力を育み未来を拓く川越市の教育」に基づき、子ども達が、変化が激しく予測困難な社会を生き抜くための力を身に付け、社会の持続的な発展を支える担い手となっていけることを目指し取り組んでいる。

特に1人1台の学習者用コンピュータと各校に整備された通信ネットワークを活用することで、第三次川越市教育振興基本計画の目標の1つである「志を高くもち、自ら学び考え、行動する子どもの育成」を進めていく。

2. GIGA第1期の総括

本市においては、令和2年度に学習者用コンピュータ及び各校のネットワーク環境を整備した。また支援体制としてコールセンター設置や訪問支援員の配置を行うことで、継続的な端末活用を支援してきた。さらにソフト面の支援として、令和5年度にはリーディングDX事業を受託し、市内小・中学校から指定校を選定し、実践事例の創出及び横展開を図ってきた。

これらの取組の結果、コンピュータを使うことで学校の授業はわかりやすくなると思う児童生徒の割合が、小学校で83.6%から89.3%に上昇、中学校で83.6%から92.5%に上昇しており、学習者用コンピュータが児童生徒の学びを支えるツールとして機能してきている。

一方で、主な課題として、以下の点が挙げられる。

- (1) 児童生徒用の学習者用コンピュータの破損・故障の増加や、修理期間の長期化により児童生徒の手元に学習者用コンピュータを維持しづらい状況が生じる場合があった。第2期に向けては、修理期間中の代替機の確保や保守に係る契約の検討により、端末の破損・故障時にも全ての児童生徒が学習者用コンピュータを活用した学習ができる環境構築を図る。
- (2) 学校のネットワーク回線や、端末の性能等により、クラウドを利用した学びを進める際に遅延が生じる場面があった。令和6年度に行ったネットワーク機器の更改と合わせ、第2期に向け、目指す学びの実現に必要な学習者用コンピュータの選定を図る。
- (3) 市内全体の端末活用率は向上しているが、学校間の格差が依然として存在する。解消に向け、引き続きリーディングDX事業指定校の実践事例の横展開を図ることで、クラウド活用を前提とした授業改善を行う。

3. 1人1台端末の利活用方策

十分な予備機を含めた学習者用コンピュータを適切に更新し、1人1台端末環境を引き続き維持することを前提として、以下の利活用を進めていきます。

(1) 1人1台端末の積極的活用

各校の教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画的・定期的を実施する。

また、学習者用コンピュータの活用を支援する訪問支援員を配置することで安心して活用できるソフト環境を整備する。

さらに学習者用デジタル教科書の活用を進めることで、児童生徒の学びに学習者用コンピュータを位置付けていく。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

川越市小・中学生学力向上プランに示す「川越市授業スタンダード」において、児童生徒の学習者用コンピュータを活用した学びを位置付ける。そのうえで、児童生徒1人1人が自分で調べたり、考えをまとめ、発表・表現したりする場面において、自身の学びを広げていくツールとして学習者用コンピュータ活用を促していく。

(3) 学びの保障

学習者用コンピュータを用い、不登校児童生徒や外国人児童生徒、特別な支援を要する児童生徒の希望や実態に応じて学習の保障に学習者用コンピュータを活用していく。また教育相談等、児童生徒の学校生活を支える手段としても学習者用コンピュータ活用を進めていく。